

東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称)	
東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野主催 2月がん看護勉強会	
事例報告者 : 富澤 あゆみ	
所属 : 東北大学大学院がん看護学分野	
テーマ : 米国がんサバイバーシップケア視察 The second	
担当者氏名 : 佐藤 富美子 教授	所属 : 東北大学大学院がん看護学分野
内線 : 7926	Email: <a href="mailto:fsato@med.tohoku.ac.jp">fsato@med.tohoku.ac.jp</a>
1. 実施年月日 :	
平成 31年 2月 18日	
2. 開催場所 :	
東北大学医学部保健学科D棟 217号室 がん看護学分野カンファレンス室	
3. 関連分野 :	
サバイバーシップ、がん看護、地域看護、テレメディスン、LTFU、AYA、ピアサポート	
4. 対象者 :	
がん看護に興味関心のある医療関係者・大学教員・東北大学大学院医学系研究科保健学専攻学生・東北大学医学部保健学科学生	
5. 参加人数 : (お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など)	
大学教員 3名、大学院生 3名(がん看護 2名、小児看護 1名)、医療関係者 2名(他病院外来看護師 1名、在宅診療所看護師 1名) 計 8名	
6. 成果 :	
<p>1月の報告に引き続き、視察の更なる詳細として、シアトルの地域医療システムを背景とした、急性期からフォローアップ時期に渡るまでの医療システムについて報告があった。</p> <p>シアトルでは、小児病院、大学病院、クリニック(地域)など Alliance partner の契約を結び、小児期に疾患に罹患しても、その後に契約病院内の病院を受診した際にフォローアップされる医療システムが構築されていた。また、患者自身がピアサポーターとして活動できる仕組みが構築されていた。ピアサポーターもリーダー研修を受け、さらに1年後との更新を受ける必要があるとのことであったが、ピアサポーター希望者は多いと報告があった。</p> <p>当分野では、これまでも AYA 世代に対する移行期支援の重要性が課題としてディスカッションを行われてきたが、本報告は本邦における課題をさらに明確にしたものであった。</p> <p>来月は、本邦における AYA 世代の移行期支援に関する報告が行われ、移行期支援に関する学びや示唆を深める予定である。</p>	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

